

科目名	発達障害作業療法学演習						
科目名(英)	OT for Developmental disorder ; Practice						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小野 仁		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 人間発達学で学んだ知識と発達障害作業療法学で学んだこと、そして実際の介護体験実習で学んだことを整理する。 2. 発達障害分野の各疾患について学ぶ。 3. 発達障害分野の各疾患に対する作業療法の知識を学ぶ。 4. 対象児者や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりについて学ぶ。 5. 介護体験実習Ⅱで、こどもたちの特徴を考え、こどもたちが楽しめる遊びや活動を提供する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技: △	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				代表的障害(知的障害、筋ジス、ダウン症、二分脊椎等)について臨床像を説明することができる。	
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。	
	○	○		○		特別支援学級での介護体験実習に参加し、児童・生徒と安全に配慮しながら、遊びや活動等を提供できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版、メディカルビュー、2015 参考文献: 岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]第3版、三輪書店、2019 上杉雅之監修、辛島千恵子編集、イラストでわかる発達障害の作業療法、2106 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護体験実習の振り返り(グループワーク)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をするようにしてください。	
	2	介護体験実習の振り返り(まとめ)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をするようにしてください。	
	3	知的障害に対する作業療法(知的障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	4	知的障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	5	摂食嚥下障害に対する作業療法(嚥下障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	6	摂食嚥下障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	7	筋ジストロフィーに対する作業療法(筋ジストロフィーとは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	8	筋ジストロフィーに対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	9	ダウン症に対する作業療法(ダウン症とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	10	ダウン症に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	11	二分脊椎に対する作業療法(二分脊椎とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	12	分娩麻痺に対する作業療法(分娩麻痺とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します	
	13	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をして、みんなでこどもたちの活動を考えて下さい	
	14	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をして、みんなでこどもたちの活動を考えて下さい	
15	まとめ				グループ全員が参加してレポートを作成するようにしてください。		
評価方法	(1)レポートを実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。 以上を下記の観点・割合で評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	レポート	○	○		○		20%
履修上の注意	特別支援学級での2回の介護体験実習を12月ごろに実施する。日程は調整の上、告知します。 その他、必要なものについては授業の中で提示をします。						

科目名	高次脳機能障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Higher Brain Dysfunction Assessment						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	高次脳機能障害の概要と各障害の障害像について教授する。また、高次脳機能障害が影響する生活障害について考え 作業療法士の役割についても提示する。併せて、作業療法を実践するうえで必要な画像所見や評価方法の基本的な知識と技術、作業療法介入について教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高次脳機能障害の定義および典型症状を理解することができる。	
	○	○				高次脳機能障害を抱える人の生活障害をイメージすることができる。	
	○	○				各高次脳機能検査の実施を理解し、実施することができる。	
	○	○				各高次脳検査検査の結果を解釈し、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 鈴木孝治: 高次脳機能障害学領域の作業療法. 中央法規 2) 病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンスおよび脳の機能解剖				振り返りシートで復習すること	
	2	脳画像の見方				振り返りシートで復習すること	
	3	高次脳機能障害総論				振り返りシートで復習すること 小テスト①を実施します	
	4	高次脳機能障害における作業療法の展開				振り返りシートで復習すること	
	5	意識障害における作業療法				振り返りシートで復習すること	
	6	注意障害における作業療法				振り返りシートで復習すること 小テスト②を実施します	
	7	記憶障害における作業療法				振り返りシートで復習すること	
	8	情動障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	9	失語症における作業療法				振り返りシートで復習すること 小テスト③を実施します	
	10	失行症における作業療法				振り返りシートで復習すること	
	11	失認症における作業療法				振り返りシートで復習すること	
	12	半側空間無視における作業療法				振り返りシートで復習すること 小テスト④を実施します	
	13	遂行機能障害における作業療法				振り返りシートで復習すること	
	14	事例検討				振り返りシートで復習すること	
15	事例検討				振り返りシートで復習すること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを4回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学演習						
科目名(英)	Seminar for OT Assessment						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	野村 和代		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	作業療法を実施するためには対象者を全人的にとらえることが重要である。しっかりと問題点を把握し、その人がその人らしく生きるためゴールを設定しその達成のためのプログラムを立案することも必要である。この講義では、そのために要する評価の目的や臨床的意義を理解し、各種の検査・測定法を実施できるようになることを目的としている。最終的には模擬症例を用いて、評価結果を統合・解釈し、プログラム立案へ結びつけることも目指している。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法における評価の目的を理解し、説明できる。	
	○	○				作業療法評価に必要な各種の検査・測定法の臨床的意義を理解し、実施できる。	
	○	○		○		模擬症例の評価結果から問題点を抽出できる。	
	○	○		○		模擬症例に対するプログラム立案ができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)能登真一他 編:標準作業療法学・作業療法評価学 第3版. 医学書院.2017. 2)市川和子 編:作業療法臨床実習とケーススタディ 第2版. 医学書院.2011. 3)上田敏 著:ICFの理解と活用. 第1版. 萌文社.2008. 4)中里 瑞美子 著:片麻痺の作業療法. 第1版. 共同医学出版社.2016. 5)鈴木則宏 編:神経診察クローズアップ. 第2版. メジカルビュー.2016. 参考文献:1)樋口貴広他 著:身体運動学 第1版. 三輪書店.2008. 2)田崎 嘉昭他 著:ベッドサイドの神経の診かた. 第15版. 南山堂.2002. 3)西条 寿夫 監修:リハビリテーションのためのニューロサイエンス. 第1版. メジカルビュー社.2015. 4)本間 光信他 編集:リハビリテーションのための画像の読み方. 第1版. メジカルビュー社.2015. 5)松原貴子他 著:ペインリハビリテーション 第1版. 三輪書店.2011.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	画像の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	2	筋緊張と反射検査				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	3	筋緊張と反射検査				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	4	小脳の機能と協調性				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	5	知覚の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	6	疼痛の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	7	上肢機能の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	8	疾患別評価:脳卒中(脳神経検査/片麻痺機能検査ほか)				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。	
	9	疾患別評価:脳卒中				疾患別評価の当該疾患に関する復習。	
	10	疾患別評価:脊髄損傷				疾患別評価の当該疾患に関する復習。	
	11	疾患別評価:関節リウマチ /パーキンソン病 その他				疾患別評価の当該疾患に関する復習。	
	12	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:模擬症例における評価手段選択と問題点抽出)				『臨床実習とケーススタディ』の指示した箇所を精読し、ケーススタディの予習しておく。	
	13	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:模擬症例におけるゴール設定・OTプログラム立案)				ケーススタディのグループワーク担当箇所を調べてまとめておく。	
	14	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:まとめ)				ケーススタディのグループワーク担当箇所を調べてまとめておく。	
15	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:発表とレポート提出)				発表の準備。試験に向けての学習。		
評価方法	(1)ケーススタディの発表とレポートを1回提出する。(2)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	レポート	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	実技時の服装は、学則及び臨床実習時の心得に順ずる。						

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder Ⅱ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	①疾患の障害特性と作業療法の実践を理解する ②精神障害作業療法の基本的な実践を理解する ③精神障害作業療法の評価と計画を理解する ④精神障害作業療法の評価と計画を実施できる						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				疾患の障害特性と作業療法の実践を説明できる。	
	○	○				精神障害作業療法の基本的な実践及び評価と計画を説明できる。	
	○	○		○		評価を行い、情報の整理することができる。	
	○	○		○		事例演習を通して作業療法計画の立案を体験する。	
テキスト・教材 参考図書	①香山明美他編:生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで.医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)富岡詔子他編集,日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書).協同医学出版社 2)石井良和他編:精神障害領域の作業療法.中央法規 3)松井紀和編著:精神科作業療法の手引き.牧野出版 4)昼田源四郎著:統合失調症患者の行動特性.金剛出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 疾患、障害特性と作業療法の実践(統合失調症)				教科書を読み、予習を行う。	
	2	疾患、障害特性と作業療法の実践(気分障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	3	疾患、障害特性と作業療法の実践(気分障害) 疾患、障害特性と作業療法の実践(神経症性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	4	疾患、障害特性と作業療法の実践(神経症性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	5	疾患、障害特性と作業療法の実践(パーソナリティ障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	6	疾患、障害特性と作業療法の実践(摂食障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	7	疾患、障害特性と作業療法の実践(物質依存性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	8	作業療法の実践				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	9	作業療法評価演習				演習のための準備を行う。	
	10	作業療法評価演習				演習のための準備を行う。	
	11	事例演習(講義)				演習についてレポートにまとめる。	
	12	事例演習(グループワーク)				事例演習課題を進める。	
	13	事例演習(グループワーク)				事例演習課題を進める。	
	14	事例演習(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
15	事例演習(発表)				事例検討の結果をまとめ、グループ毎に発表し課題を提出する。		
評価方法	(1)授業の中で小テスト・演習とレポート課題を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
	演習・レポート	◎	◎		◎		
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						

科目名	身体障害作業療法学演習						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction ; Practice						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	この授業は、実際作業療法を行う上で何がクライアントにとって必要なことを考える授業である。そのためには基礎医学、臨床医学、作業療法理論、基礎作業学実習、作業療法評価学を統合する必要がある。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法の対象となる代表的な疾患について説明できる	
	○	○				作業療法の具体的な介入方法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	①身体障害作業療法学(ゴールドマスター・テキスト4) ②身体障害領域の作業療法③病気が見える7 脳・神経 参考文献:参考文献は、その都度紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【各論】頭部外傷(疫学、分類、症状) 【各論】頭部外傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	2	【各論】脊髄損傷(疫学、分類) 【各論】脊髄損傷(症状)				進んだところまで、プリントを埋める	
	3	【各論】脊髄損傷(作業療法) 【各論】脊髄損傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	4	【各論】パーキンソン病(疫学、分類) 【各論】パーキンソン病(症状)				進んだところまで、プリントを埋める	
	5	【各論】パーキンソン病(作業療法) 【各論】パーキンソン病(作業療法)				課題プリントの作成	
	6	【各論】筋萎縮性側索硬化症 【各論】脊髄小脳変性症				課題プリントの作成	
	7	【各論】グラントレー症候群 【各論】多発性硬化症				課題プリントの作成	
	8	【各論】関節リウマチ(疫学、分類) 【各論】関節リウマチ(症状)				進んだところまで、プリントを埋める	
	9	【各論】関節リウマチ(作業療法) 【各論】関節リウマチ(作業療法)				課題プリントの作成	
	10	【各論】末梢神経損傷(疫学、分類) 【各論】末梢神経損傷(症状)				進んだところまで、プリントを埋める	
	11	【各論】末梢神経損傷(作業療法) 【各論】末梢神経損傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	12	【各論】骨折(疫学、分類) 【各論】骨折(症状)				進んだところまで、プリントを埋める	
	13	【各論】骨折(作業療法) 【各論】骨折(作業療法)				課題プリントの作成	
	14	【各論】内部障害(呼吸器疾患) 【各論】内部障害(循環器疾患)				課題プリントの作成	
15	後期の振り返り				課題プリント全てをまとめ、今後に備える		
評価方法	(1)レポート(課題プリントの提出)を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	◎				20%
	定期試験	◎	◎				80%
履修上の注意							

科目名	ADL支援学						
科目名(英)	Activities of Daily Living ;Practice						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	原田芳美		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1.福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。 2.福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。 3.福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。 4.疾患ごとに適切な介助を考慮することができる。 5.客観的臨床能力試験(OSCE)を用いてADLの介入技能を理解することができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				福祉用具の概念を学び、その給付体系を説明できるようになる。	
	○	○				福祉用具に関する作業療法士の役割を説明できるようになる。	
	○	○				福祉用具の適応をとADLを関連付けて理解し、説明できるようになる。	
	○	○	○			OSCEを用いてADLの介入技能を理解し、説明できるようになる。	
○	○				ケーススタディを通して臨床推論を述べるできるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書 1)木之瀬 隆 編集:作業療法学全書第10巻作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備第2版.協同医書出版社,2009. 2)才藤栄一:臨床技能とOSCE.(機能障害・能力低下への介入編)金原出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉用具概論 福祉用具供給システム ベッド周辺の福祉用具				配布資料の復習	
	2	移乗関連の福祉用具 排泄関連の福祉用具				配布資料の復習	
	3	入浴関連の福祉用具 座位保持装具				配布資料の復習	
	4	移動関連の福祉用具 歩行関連の福祉用具				配布資料の復習	
	5	自助具 腕保持装具 治療に関する福祉用具				配布資料の復習	
	6	環境制御装置・意思伝達装置 住宅改修				配布資料の復習	
	7	福祉機器展示場見学 (レポート)				レポート作成	
	8	ポジショニングに対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	9	起き上がりに対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	10	起立・着座に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	11	移乗に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	12	歩行に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	13	ケーススタディ(脳血管障害)				配布資料の復習	
	14	ケーススタディ(整形外科疾患)				配布資料の復習	
15	まとめ				配布資料の復習		
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	宿題・レポート	◎	◎	○			30%
履修上の注意							

科目名	地域作業療法学						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	早川由加里(身障・老人) 小野仁(発達障害) 藤元啓行(精神障害)		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	早川由加里(介護老人保健施設で作業療法士として勤務) 小野仁(病院・福祉施設で作業療法士として勤務) 藤元啓行(病院に作業療法士として勤務)		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、身体障害領域および介護保険領域、発達領域、精神領域における地域作業療法の知識基盤および実践的方法論を理解する。また、日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントの基礎的な知識と実際の評価、マネジメントの方法について理解する。各領域での実践例についても直接触れ、その実践を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域作業療法の理念と役割を説明することができる。	
	○	○				各領域の地域生活における生活障害の特徴を例を挙げて説明することができる。	
	○	○				学生を相手に生活行為向上マネジメントを模倣的に実施し、介入プランを立案することができる。	
	○	○				模擬症例を通して、地域生活におけるケアプランおよび作業療法プランを立案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)福岡県社会福祉協議会編:障害者福祉情報ハンドブック2018 2)寺山 久美子編:作業療法学全書別巻 地域作業療法学. 協同医書出版社 3)香山明美他編:精神障害作業療法—急性期から地域実践まで 医歯薬出版 参考文献:1)精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム(日本作業療法士協会)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身障・老人	地域リハビリテーション・地域作業療法概論			講義資料を通して復習しておくこと	
	2		社会資源について(介護保険制度、その他保健福祉サービス)			講義資料を通して復習しておくこと	
	3		ケアマネジメントについて(アセスメントからケアプラン立案までの流れ)			講義資料を通して復習しておくこと	
	4		地域作業療法の実際(作業療法士の活動内容)			講義資料を通して復習しておくこと	
	5		地域作業療法の実際(生活行為向上マネジメントについて)			講義資料を通して復習しておくこと	
	6	発達	地域作業療法の理念と役割、知識基盤(社会資源)			講義資料を通して復習しておくこと	
	7		発達障害児(者)の困り感(ライフステージに沿って)			講義資料を通して復習しておくこと	
	8		発達障害児(者)のケアマネジメントと自立支援(意思決定支援)について			講義資料を通して復習しておくこと	
	9		障害児の福祉サービス、家族支援、ケアマネジメント			講義資料を通して復習しておくこと	
	10		医療的ケア児の生活支援、特別支援教育の中の作業療法			講義資料を通して復習しておくこと	
	11	精神	精神保健福祉の現状と課題 精神障害領域における地域作業療法と評価			講義資料を通して復習しておくこと	
	12		地域生活支援のあり方と実際(再発予防・ケアマネジメント)			講義資料を通して復習しておくこと	
	13		地域生活支援のあり方と実際(外来作業療法・デイケアでの支援)			講義資料を通して復習しておくこと	
	14		地域生活支援のあり方と実際(就労支援・福祉サービス・事例紹介)			講義資料を通して復習しておくこと	
15	地域作業療法の実際(外部講師)			実際の実践に触れての感想を書く			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 定期試験は、各領域30点で合計90点満点で実施し、素点を100点満点換算し処理する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	評価実習						
科目名(英)	Clinical Practice						
単位数	2単位	時間数	120時間	担当者	作業療法学科教員 臨床実習指導者		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、作業療法士としての心構えと基礎知識や技術を臨床の場で体験し、学習する。評価実習では、担当症例を通して情報収集・評価および記録報告等の一貫した作業療法を実践するものである。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		社会人・職業人としての態度を修得するとともに作業療法部門の役割と特色を理解する。	
		○	○	○		臨床実習指導者の指導の下、作業療法評価計画から作業療法目標の設定までの過程を行うことができる。	
		○	○	○		臨床実習指導者の指導の下、臨床思考過程を症例経験報告書に整理することができる。	
		○		○		臨床実習で学んだことを他者と共有し、他者の経験から多様な視点、考え方を学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 評価実習ガイダンス						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1						
	2						
	3						
	4						
	5	・評価実習事前セミナー:2022年1月31日～2月5日(土)					
	6	実習における感染対策やリスク管理に関する講義を実施する。					
	7	評価実習に必要な知識・技術について講義等を実施する。					
	8	・評価実習:2022年2月7日～2月26日(土)					
	9	※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	10	・評価実習事後セミナー:2022年2月28日～3月5日(土)					
	11	各施設で学んだことを共有するグループワークと症例発表を実施する。					
	12	臨床実習提出課題について担当教員よりフィードバックを受ける。					
	13						
	14						
15							
評価方法	実習成績報告書に基づく臨床実習教育指導者による採点と学校への提出物、実習後セミナーでの症例発表などを総合的に判断して100点満点で判定する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題の遂行		◎	◎	◎		60%
	提出課題		◎		◎		20%
	発表		◎		◎		20%
履修上の注意							